

会議録

会議の名称	令和5年度第2回福津市郷づくり推進協議会代表者会議	
開催日時	令和5年7月25日(火)14:00~15:30	
開催場所	市役所別館1階 大ホール	
委員	勝浦：天野 保章 津屋崎：楠田 元明、川内 太 宮司：坂根 康廣、梅野 邦彦 福間：岡田 和憲、梅谷 寧次 神興：富松 享一、山西 祐司 上西郷：高木 文明、木村 良介 神興東：奥 弘子、樋口 英典 福間南：石原 政道、西村 豊子	
専任事務局員	勝浦：花田孝信 宮司：三原道雄 神興：君嶋久美子 福間：山口恵美 上西郷：末廣隆 津屋崎：大神常男 神興東：中里恵子 福間南：宮本清子	
市	原崎市長(欠席) 本多副市長 総務部：大庭部長 防災安全課：樫村課長、楨係長 うみがめ課：藤野係長	
事務局	市民共働部：香田部長 地域コミュニティ課：石井課長、向井係長、溝田	
会議	内容	1. 市長あいさつ 2. 依頼・説明事項 (1) 令和5年度福津市一斉防災訓練について(防災安全課) (2) 令和5年度代表者会議 情報交換テーマについて(結果報告)(地域コミュニティ課) 3. その他 (1) 粗大ごみの有料化開始に伴う状況報告(うみがめ課) (2) 専任事務局員の雇用経費に関する経過報告(地域コミュニティ課)
	配付資料	<input type="checkbox"/> 福津市一斉防災訓練実施要領(令和5年度)、防災訓練の事例集、福津市一斉防災訓練に関する意見について(回答) <input type="checkbox"/> 令和5年度代表者会議 情報交換のテーマ(結果報告) <input type="checkbox"/> 令和5年度専任事務局員雇用経費について(経過報告)

会議内容(要点)

1.市長あいさつ

本多副市長が代理であいさつを述べた。

2.依頼・説明事項

(1)令和5年度福津市一斉防災訓練について(防災安全課)

防災安全課が令和5年度福津市一斉防災訓練について説明した。

(委員)

実施要領2ページの必須訓練の中で“行政が行う訓練”として“防災行政無線”というのがあるが、これは市と郷づくり間で、防災無線のやり取りは行われるのか。行われるなら、構えをしておく必要があるか教えてほしい。

(防災安全課)

今回の一斉防災訓練では、「職員が防災行政無線や緊急速報メールで、情報入手する訓練」という意味で書いている。そのため、そういった訓練は今年度想定していない。

(委員)

防災無線のマニュアルをもらっているのでは分かると思うが、実際使う日にこれはない。無線の使い方自信がないので、この一斉防災訓練に限らず、使ってみてよいと考えていいか。

(防災安全課)

防災訓練の期間に限らず、「使い方が分からない」と呼ばれたところには出向いている。防災安全課に連絡いただければ、実際に動かしてみることは可能だ。

(委員)

一斉防災訓練のスケジュールのことだが、今回高校との行事に重なっている。高校まで含んだところで調整されているのか。されてなければ、防災訓練は続くと思うので、高校まで含んで調整をお願いしたい。

(防災安全課)

現時点で学生については、小・中学生を想定していて、高校については今まで調整したことはなかったため、持ち帰って検討したい。

(委員)

実施要領2ページの6“必須の訓練”(1)の“当日の訓練”⑤の「避難者数や状況の把握訓練」についてだが、こういう訓練をする場合は、市も一体になって実施するため、当日に郷づくりから行政に「〇〇郷づくりが訓練終了しました」と報告をして、初めてこの訓練に結びついていくのではないだろうか。これでは結果後回しとなり、必須事項を入れるのなら行政への報告も当日がいいと思う。

(防災安全課)

今後の参考にさせていただく。今回は、地震発生直後72時間は行政職員も被災していると想定しており、訓練参加も全市で約8000人のため、当日の集計となると自治会や郷づくりの負担が大きいかと思われる。そういった意味で、後日としている。

(委員)

今の実績報告は、各郷づくり・自治会によってやり方が色々違うが、実績報告では数字、参加者数など、どういうところまで求めているのか。

(防災安全課)

実施要領 9 ページに必須訓練の報告様式、10 ページに任意訓練の様式があり、参加者数等を書いてもらうようにしている。地域によっては、自治会から郷づくりに情報が集約していくところと、元々郷づくりがある前から自主防災組織があったところ等は、郷づくりを通さず市に報告されることもある。

(委員)

数字については後日改めて提出するというのは分かるが、まずは「〇〇郷づくり、訓練が終了しました」「異常ありませんでした」という報告は、組単位から自治会、そして郷づくり、行政という一連の流れで当日やるべきではないだろうか。そういう流れはしっかりしないと、郷づくりの会長のところまでは全て報告がいったが、行政へは後回しというのは考えものだと思う。こういう訓練は、その繰り返して習慣化していくものなので、市への報告を加えたほうがいい。どういう形でやるかは、お任せする。

(防災安全課)

郷づくりがある前から訓練をしている自治会等の兼ね合いがあるので、この場では統一したやり方は決めかねる。今後、神興東郷づくりからアイデアをいただいた、各郷づくりの防災関係者を集めた会議等で、統一した意見としてまとめた上で、来年度の取り組みの宿題とさせていただきたい。

(委員)

この防災訓練は、何のための防災訓練なのか。

(防災安全課)

実施要領に要約しているが、自分と家族を守る自助と、避難経路等を確認して情報伝達を行う共助で、自助と共助力を高めるのが訓練の目標である。

(委員)

自助、共助は分かるが、市民の生命、財産を守るために市としてやろうとしていて、災害は明日あるかもしれないのに、「来年にしよう」と、他人事のように聞こえる。形式的にやっているだけで緊迫感が全くなく、ただマニュアルがあるからそれを作って実施しているだけだ。

では郷づくりの立ち位置はなにか。この前の大雨の時に避難指示がでたが、郷づくりには何にも連絡なく、どうしていいのかわからない。連絡も全く取れていない。72 時間はみんなが被災した中で、職員は緊急に出勤して、「人が来れるようにはどうするか」と対応マニュアルを決めていくものだ。防災意識を高め、植えつけない、そういうものが全然感じられない。「連絡もしないでいいですよ」それならなんのために防災訓練をするのか。連絡がないと、いざ被災した時に上西郷は全部交通が遮断され孤立する。地域だけである程度そこを持ちこたえなければならぬが、そういうシステムも全くなく、これでは見殺しになってしまう。それを防ぐために防災計画を立てたり、防災訓練をやるのではないのか。そういったところが今の話の中で全く感じられないが、いかがか。

(防災安全課)

今回、この実施要領でさせてほしいと説明した中で、「持ち帰って」や「来年で」という言葉が耳に触ったと思う。私たちも“自助・共助を高め、市民の皆さんの安心・安全を守る”ことが第一と考えている。この訓練の話も、前回会議でのご指摘を反省糧にして、各自治会や各郷づくりを回ってお話を聞かせてもらった。訓練報告については人数や様式にこだわらず、今から検討するが、例えば人員や資機材の「異常なし」という報告をいただければ、私たちも市長に対して報告をして、連携を取ることによって理解をしている。

(委員)

私が自治会長時代の防災訓練は組から参加者を募り、250 人ぐらい参加するということで、名簿を作り、それを提出してもらい避難していた。避難した時、全員来ているかどうか組長にチェックしてもらい、全員来ていれば、自治会長へ「全員避難完了しました。異常なし。」と報告をする。この訓練で「異常なし」報告を受けることは 1 番大切なことであり、郷づくりまで当時報告していた。やはり市と一体となった

訓練であれば、当日のうちに行政へ、本来であれば原崎市長に報告すべきである。各郷づくりの会長が「〇〇郷づくり、ただいま防災訓練完了。全員異常ありませんでした」という報告をして、その郷づくりは訓練完了となる。そういう一体感を持ってやらないと、行政からのやらされ感があっては意味ないと思う。

(防災安全課)

訓練報告、活動報告については、各郷づくりが各自治会の報告を求めているのか、今どんなやり方をされているのか、確認しながら検討させていただきたい。全てまとめられるのかどうか現時点では分からないので、後日各郷づくりに確認したうえで報告方法をお知らせしたい。

(委員)

事例集1ページの日本防災士会への協力要請は具体的にどのような訓練を要請できるのか。

(防災安全課)

先日、電話で確認したところ、地域の要望に応じて対応できるといった内容だった。費用については相談に応じてくれるということだった。

(委員)

無料ではないのか。

(防災安全課)

無料ではないが、お気持ちで結構で、金額の設定はなかった。

(委員)

お気持ちと言われても、あまりに漠然としている。消防本部、消防団、自衛隊、防災士会の大体イメージはつくが、具体的に「市の消防団だったら、こういうことも対応できる」など具体例があればいいが、「防災士会が相談に応じます」だけではこちらも出しようがない。今年度は私たちも自治会の方に色々要請し、一斉防災訓練に向けて進めているため、途中でやり方が変わっては対応が難しい。今年度、急に色々変わると、自治会が混乱するので、もし何かいい形があれば早めに教えてもらいたい。

(防災安全課)

防災士会に連絡を取って具体的な情報が提供できるようにする。

(2) 令和5年度代表者会議 情報交換テーマについて(結果報告)(地域コミュニティ課)

地域コミュニティ課が令和5年度代表者会議の情報交換テーマについて説明した。

3.その他

(1) 粗大ごみの有料化開始に伴う状況報告(うみがめ課)

うみがめ課が粗大ごみの有料化開始に伴う状況報告を行った。

(2) 専任事務局員の雇用経費に関する経過報告(地域コミュニティ課)

地域コミュニティ課が専任事務局員の雇用経費に関する経過報告を行った。

(委員)

令和5年度の取扱いについて今の説明では、本給を上げたところについては補填はなくて「地域で負担」というふうに分かる。時間外手当は補填すると書いてあるが、なぜそんな不公平なことが起きるのか教えてほしい。

(地域コミュニティ課)

雇用経費の話は昨年度から何度も話が出た中、暫定的に令和5年度の取り扱いを決めた。本給について現時点では増額の補正要求は想定してないが、福岡県の最低賃金の動向を見て、そこに抵触する場合は考えていく必要があると思っている。時間外については、今説明したとおりである。

(委員)

回答になっていない。もしそうだとすれば、「時間外に限って補填する」となる。それが答えられない理由はなにか。

(地域コミュニティ課)

今のところ、現状報告ということで資料に掲載しており、時間外手当については補正対応するというところで、昨年度お話をしており、現在対応している。本給は10月に最低賃金が改定ということで、今後見直される見込みだが、現状では最低賃金が今の基準を上回るかどうか見えないので、現行の9月補正の中には見込んでいない。もし10月で最低賃金が956円を上回っていた場合は、おそらくその後の補正対応等を、市で再度検討しなければいけない。あくまで今言えることだけを、資料に入れているので、今年度の暫定対応は、これで確定という意味ではない。

(委員)

今の説明も納得できない。前回か前々回の会議でこの話が出た時に、「令和4年度の時点は地域負担で、5年度予算がつけば対応する」というふうに私は理解しているが、もしそれが違うのなら元々の話から説明し直しである。資料の1番下の「時間外手当を導入した協議会の見込み額を積算のうえ、交付金予算の増額分を9月補正予算に上程準備中」とあるが、言い訳に見える。最初から「全地域増額」と記載したらいい。書けない理由が分からない。

また、もし仮に956円が最低賃金を下回っているなら考えるとと言われるが、956円と言ったのは行政側の話であり、地域が決めたわけではない。説明して終わりでは納得できない。全て見直してほしい。

(地域コミュニティ課)

昨年度、我々が3月に示したのは、その当時に考えられる基準を示している。今のような意見が出た中で、本給側をどうしていくかはこの場で結論付けはできないので、ここで「こうしたい」ということは、私の口から述べられないが、今伺った話をどのように対応していくかは、改めてこちらで検討したい。

(委員)

956円を下回って雇用契約し、なおかつ残業代を出すと、今度二本立てで上がる。そういうことも含めて、郷づくりのやり方で凸凹があるのは納得できない。やり方を同一にすることを強く希望したい。

(地域コミュニティ課)

同一にするという考え方は、地域によっても色々考えがあると思うので、このあたりは、1つの地域からのご要望ということで伺わせていただく。

(委員)

それは違うと思う。地域で給料が違となると「基本的にも違うのか」という話になる。地域間格差があってはおかしい。同一行政で地域間格差がなぜ起こるのか。

(地域コミュニティ課)

地域の中でも雇用の日数等で差は実際出ており、ここを全地域同じ額にできるのかというのは、こちらでも「この金額で」と示せば1番いいが、そのあたりは難しく、このラインを昨年度決めた。市の会計年度任用職員の時間給が、実際最低賃金を上回っていたのと、行政職の関係で1番近いものということで参考にしている。確かにこれを上回る時給の方と、これに近い時給の方が実際に出ているので、どこまで統一したものにできるかは、この場で「こうする」というのは思いついていないので、明確な回答はできない。

(委員)

明確な回答とは言わないが、令和4年度までは、事務局員の給与については「180万円まで」と紐付き予算としていたが、それはなんだったのかロジックが合わない。この場で回答は不要だが、少なくとも地域間格差がないよう調整するのは行政の役目である。本来の役目を果たさず「地域間格差を容認します。なんとか頑張ります」は回答にならない。

(地域コミュニティ課)

現状でその解消を行政でしますという明確な回答はこの会議の場ではできない。180万円を撤廃したからと言って、それ以外の基準をまだ明確に定めているわけではない。

(委員)

強くお願いしたいのは、改めて代表者に集まってもらい、議論してほしい。公の場で話しにくいなら、それぞれで片付けてほしい。うやむやで、「説明はなんとかしました。これでいい。」というのは、納得できない。しっかりやってほしい。

(地域コミュニティ課)

改めて、代表者会議の会長・副会長とも相談しながら、今後の対応は決めていきたいと思う。

(会長)

本給の増額や時間外手当の導入は郷づくりでも実施するところ、しないところがあるので、そのあたりも含めてどういう会議をしていくかを、地域コミュニティ課とも打ち合わせながら協議したいと思う。

(委員)

最後に、これまでの議論を踏まえて、副市長としてどういう感想を持ったかお聞かせ願いたい。

(副市長)

今回、防災の前回の補足的なところを含めて、報告は2件だった。防災の面では「実践に即したところできちんと訓練をしないと意味がなく、表面的ではダメですよ」というのが、皆さんの統一した見解だろうと思っている。そのあたりはもう一度、防災安全課にも伝え、私も入って協議したいと考えている。今年の分については、今の段階になって、ころころ変えることは控えるべきと思っているが、今後に向けて一貫性を持たせ、1回で終わるような形でしていきたいと思う。それから、地域コミュニティ課の時間外手当や、180万円の撤廃などに関して、各郷づくりでやり方など共通してない部分があると思う。ゴールは同じでも手段が違うことがあるので、担当部局と郷づくりの会長・副会長を中心とした皆さんの意見を積み上げた上で、それをもとに臨むというような形が必要だろうと感じた。事前協議をしたとは聞いていたが、これだけ色々意見が出るということは、詳細部分まで至ってなかったということであり、私も含めて反省すべきだと思っているので、今後は効率的な会議の仕方、そして市としてしっかりした方針を持って臨みたい。代表者会議の皆さん一度に会える貴重な場は必要だと考えているので、より有意義になるようにしていきたい。反省すべきところもあるので、内部的には、市長にも報告した上で今後やっていきたいと思う。

(委員)

副市長は事前協議をした云々と発言されたが、事前協議をしたのは“令和5年度代表者会議の情報交換のテーマ”についてしか事前協議していない。誤解があるのと、我々は元々事前協議を要請されてはいないはずである。会長も副会長もそういう役割があるのか。

(副市長)

代表者会議の内容を事前に聞いており、今回の依頼について、大まかに協議をしていたと認識していた。

(委員)

今言われたような問題になっている点は、「議題がない」とおっしゃるので、こういうことについても経過報告をされてはどうかというふうに伝えただけであった。その内容について、「こういう現状だからご意見聞かせてください」という話にはなっていない。それと代表者会議をするにあたり、会長・副会長と事務局で事前協議をするという位置付けになっているのか。なっているなら、もう少し全体の提案内容を見せていただいて、その上できちんと検討させてもらえればいいが、これについて「ご意見聞かせてください」ということで、たまたま集まっただけである。市の進め方は非常に乱暴で、いきなり物事が出てくることが多い。もしやるのなら、もう少し丁寧に進めてほしいのと、副市長の話そのものも乱暴である。こういう話があったから事前協議が不十分だったというふうになると、我々は人格からして否定されているようになる。正確に把握した上で正確な発言をお願いしたい。それらも含めて丁寧に進めるように、検討の進め方を丁寧にさせていただきたい。

(副市長)

申し訳なかった。“事前協議”という言葉を使うのなら、内部的に丁寧な説明を徹底した上で進めていきたい。

(委員)

ワークショップ(第9回共働推進会議)でも議論になっていたが、来年の答申の柱がもう決まり、それについて色々アイデアを出してほしいと進められていたが、気になったのは“人財確保・育成”という柱だ。各自治会だけでなく、子供会・老人会・郷づくりの役員を含めて、もう担い手がいない。また先日のワークショップでヒントめいたことは何もなかった。老人会は平成11年頃に比べ、半分程消滅していつて、後継者不足で成り立たなくなっている。60歳以上が対象だが、60代・70代で老人会に入ると、いきなり役が回ってくる。ほとんどの方が80歳を超えており、担う人もほとんどいない。子供会も子供の都合ではなく親の都合で、役員を担うくらいであれば子供会に入らない。郷づくりでも同じある。この問題については、代表者会議の中で、大きなテーマとして議論したい。その中には、役員手当の見直しを含めて今後のテーマにさせていただければと思う。

(会長)

今の意見は、どこの郷づくりや自治会も同じような悩みを抱えていると思うが、改めて協議する必要があると思う。いいアイデアがあれば皆さんに聞きたいし、共働推進会議でもそういう話はあるので、具体的なアイデアは中々出てこないが、そういう場は設けたいと思っている。

(委員)

個人的に、ワークショップ的なやり方で問題解決を進めるのは、市としては乱暴なやり方だなと思う。それぞれ郷づくりで違う課題を抱えており、そういった形で片付けることは、やるせない。また、ワークショップのメンバーの中にキッカケラボの方は入っているが市の職員は全然入っていない。共働推進会議に入っているかもしれないが、市の職員は一切関わっていない。姿勢がよく見えない、意見が分からないと感じられた。いろんな課題を市と一緒に丁寧に片づけてもらいたい。

(委員)

私自身も今年度から郷づくりの会長に就任した。ワークショップには参加していたが、いきなりあの本題に入っている。過去の流れ、いきさつといった説明が全くなく進んでいき、進め方が非常に乱暴だ。郷づくりの新任の会長もいたのだから、まずは全体的にこのワークショップに至った経緯「こういう流れでここに行きつきました。そして、答申の柱はこういうふうに現在決まっている。それについては事前に各郷づくりを回って、現状や問題等を全部一旦出してもらい、色々議論を重ねてきた。その結果がここに出ている資料だ」という説明があって、その流れの中で進めていくなら分かる。

もう1点は、人財確保や育成の問題、交付金の問題等の解決案が各郷づくりで議論されて、ある程度出てきたものを持ち寄って、郷づくりの会長・副会長・部会の人たちが集まっていたらどうなのか。全くその流れが分からない中で、アイデアを出せといっても出てこない。

それと、4時間半にわたるワークショップは全然身が入らなかった。「早く終わらないかな」と、そ

会議録

うとろばっかりを考えて進んでいたというのがもう正直なところだ。ワークショップそのものの進め方も工夫していただきたい。そして、頭を1つにしてやっていかないと、せつかく4時間半を費やして、ワークショップをしても全く無駄になってしまう。進め方についても、もっと丁寧に参加者の立場に立ってお願いしたい。

(地域コミュニティ課)

運営のあり方や参加者等を含めて、つたなかった部分・やり方がまずかった部分をご指摘いただいた。今後やる際には、今いただいたことを踏まえながら、しっかり対応していけるように改善していきたい。

(委員)

9月中旬以降に共働推進会議の中間報告案が出るようになっていた。次回の代表者会議はそれが終わった後にしてほしい。中間報告案が出て、我々が意見を言う場がほしい。逆に26日に代表者会議を決定しているなら、中間報告案を前に完了させてほしい。中間報告案は共働推進会議がまとめており、会長なりワークショップの場にいた人がある程度の意見を汲み取って、中間報告案に盛り込みたいということも表明されたので期待をしている。中間報告案を見て、その内容に対しての意見を出す場に代表者会議をしてもいいと思う。

(地域コミュニティ課)

中間報告案について共働推進会議で意見だしするのが9月22日で、そこで修正等を加えた上で代表者会議の皆さんにも確認をしてもらいたいと思っていた。9月26日の代表者会議開催はスケジュール的にも難しいと思う。共働推進会議の会長にもその件を伝えた上で、代表者会議の日程は改めて連絡したいと思う。日程は一旦保留とする。

以上で郷づくり推進協議会代表者会議を終了する。